

ディケンズ・フェロウシップ日本支部

2012 年度 春季大会 プログラム

Spring Conference, 2012

The Dickens Fellowship: Japan Branch

後援：早稲田大学英文学会

日 時 Date 2012 年 6 月 16 日 (土) June 16, 2012

会 場 Venue 早稲田大学 国際会議場 (井深大記念ホール)

International Conference Center, Waseda University (東京都新宿区西早稲田 1-20-14)

理事会 13:00 ~ 13:45 (国際会議場 共同研究室 (6))

開 会 14:00 開会の言葉 日本支部長 佐々木 徹

研究発表① Short Paper Session 1

14:15 ~ 15:00

司会 神戸市外国語大学 教授 新野 緑

「『ドンビー父子』における
園芸のイメージと nature
vs nurture 問題」

“The Representation of
Gardening and the Nature
Versus Nurture Issue in
Dombey and Son”

三宅 敦子

Atsuko MIYAKE

西南学院大学 准教授

Seinan Gakuin University



研究発表② Short Paper Session 2

15:00 ~ 15:45

司会 神戸市外国語大学 教授 新野 緑

「看守になったミッグズ
——未婚女性の働き口
としての監獄」

“Miggs, a Maid
Turned Turnkey in
Barnaby Rudge”

中田 元子

Motoko NAKADA

筑波大学 教授

Tsukuba University

特別講演 Special Lecture Session 16:00 ~ 17:30

司会 東京理科大学 准教授 松本 靖彦

“*A Tale of Two Cities*: History as Revenge”

University of California, Berkeley Prof. Catherine Gallagher

懇親会 Convivial Party 18:00 ~ 20:00

会 場：26 号館 (大隈記念タワー) 15 階 展望レストラン「西北の風」

会 費：一般 5,000 円、学生 3,000 円

※会員以外の方も自由にご来聴ください。

研究発表①

三宅 敦子「『ドンビー父子』における園芸のイメージと nature vs nurture 問題」

『ドンビー父子』は一人息子ポールの養育の失敗と、結局のところ手を掛けられることがなかった一人娘フローレンスが一家の幸福を回復するまでを描いた小説であるが、この小説では園芸のイメージが多く使われている。最後に一家を幸福へと導く娘の名前がフローレンスという花に関係した名前であることは言うまでもなく、落ちぶれたドンビー家と最後まで交流を続けようとするトックス嬢の朝の日課は植木の手入れである。ポールが預けられるブリンバー博士の学校は温室にたとえられているが、それだけではなくドンビー家には実際に温室が存在する。『ドンビー父子』の執筆時期は、ウォード箱と呼ばれる植物運搬・栽培用のガラス容器の発明や温室建造ブームという現象に見られるように、園芸熱が高まった時期と重なっていた。またこの時期、個人的にもディケンズは *Daily News* 創刊に際して、チャッツワースの大温室建造で名高いジョゼフ・パックストンと交流があった。本発表では、『ドンビー父子』において園芸のイメージが、いかに nature vs nurture の議論と結びつき、この小説の核をなしているのか、探してみたい。

研究発表②

中田 元子「看守になったミッグズ——未婚女性の働き口としての監獄」

『バーナビー・ラッジ』(*Barnaby Rudge*, 1841) で、鍵屋ヴァーデン家のメイドとして登場するミッグズは、物語の最後で看守になったことが伝えられる。この作品の後半は暴動と監獄の描写によって占められているので、ミッグズがたとえ看守としてであっても監獄行きになることは作品の流れにふさわしいように思われる。一方で、この時代に女性看守という職業が未婚女性の勤め先としてどのようなものとして考えられていたのかということにも興味がわく。未婚女性の仕事として、メイドはなじみ深いものだが、看守については決してそうはいえない。看守という職業の実際はどのようなものだったのだろうか。それはいわゆるリスクタブルな職業とみなされていたのだろうか。本発表では、まず英国下院議会文書や新聞・雑誌などによって監獄における女性看守の実態を探ったのち、あらためて『バーナビー・ラッジ』でミッグズが看守となって終わることの意味を考えたい。

特別講演

Prof. Catherine Gallagher, “*A Tale of Two Cities*: History as Revenge”



講師 プロフィール

She is the Eggers Professor of English Literature and has taught at Berkeley since 1980. Her teaching and research focus on the British novel and cultural history in the eighteenth and nineteenth centuries. In recent years, she has taught courses on the history of the British novel, the historiography and theory of the novel, alternate-history narratives, and various other topics in eighteenth- and nineteenth-century literature. Her publications include *Nobody's Story: The Vanishing Acts of Women Writers in the Marketplace, 1670-1820* (U of California P, 1994) and *Practicing New Historicism* (U of Chicago P, 2000). Her

most recent book is *The Body Economic: Life, Death, and Sensation in Political Economy and the Victorian Novel* (Princeton UP, 2005). She was a recipient of the 2010/2011 Berlin Prize Fellowship from the American Academy in Berlin.



交通アクセス

J R：山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分
 西武：新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分
 地下鉄：東西線 早稲田駅から徒歩 15 分
 都心線 西早稲田駅から徒歩 25 分
 学バス：高田馬場駅で「早大正門行き」乗車、
 「西早稲田」下車、徒歩 3 分
 バス：新宿駅西口 - 早稲田
 渋谷駅 - 早大正門
 上野広小路 - 早稲田
 都電：荒川線 早稲田駅から徒歩 4 分

大会準備事務局：早稲田大学・梅宮創造
 早稲田大学文学学術院
 〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
 電子メール：zumemiya@waseda.jp
 電話：03-5286-3614（英文専修室）

早稲田大学案内図

〒169-8050 TEL. (03) 3203-4141 (総合案内)

バス停案内

1	2	3	4	5	6	7	8
都バス (学バス) 「高田馬場駅前」 「早大正門」	都バス (学バス) 「高田馬場駅前」 「九段下」	都バス (学バス) 「西早稲田」 「馬場下町」	都バス (学バス) 「早大正門」 「ラランド坂下」	都バス (学バス) 「都立碑書者 センター前」	都バス (学バス) 「早稲田」	都バス (学バス) 「早稲田」	都バス (学バス) 「早稲田」

国際会議場
(井深大記念ホール)
第二会議室

